

令和2年9月30日



10月 釜小だよ

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>



折り返しの10月

校長 菊池 幸博

4月・5月と2か月間の臨時休校・自粛生活、6月となって分散登校等の段階的な学校再開、長めの梅雨空のもと7月末までの授業、8月は2週間という短い夏休み、そして8月中旬から再び酷暑の中の学校生活、残暑とマスクで熱中症対策を考えながらの9月。子どもたちも学校もこうした半年を過ごしてまいりました。その間、新型コロナウイルス感染防止や熱中症対策等、保護者の皆様には本当に例年にないご配慮、そして、ご理解ご協力を賜りましたこと、紙面にて恐縮ではありますが深く感謝申し上げます。

入学式や授業参観・懇談会、各ご家庭への訪問、4・5年生においては宿泊行事、また校内での学習活動を見ますと、本校の特色ある教育活動である「たてわり活動」また校外学習や委員会・クラブ活動、プールでの学習そして様々な日常の学習活動にわたり、中止・延期・制約の判断をせざるを得ない状況でした。子どもたちにとっては楽しみにしていた活動が行えないという本当に心苦しい選択をしてまいりました。特に6年生の子どもたちには、ほとんどの活動が「小学校生活最後の」という枕詞がつくものばかりです。悔しい、残念だ、という思いは計り知れないものと感じております。

制約ばかりの学校生活ではありますが、その中でも子どもたちは努力や工夫をしながら今のこの状況を乗り越えようと頑張っています。その一つは「手洗い」です。校庭で遊んだりトイレに行ったりした後、石けんでの手洗いが以前は残念ながらそれほど高くはありませんでしたが、今ではほぼ全員の子供たちが石けんで手を洗っています。これはこの先もずっと習慣化して行ってほしいと望んでいます。また密を避けながらの交流も始まっています。6年生数人のグループが1年生の教室を訪問し、給食の牛乳パック開けの補助をしたり、集会委員会では、動画や放送を使った集会活動の計画を立てたりしています。今後ますます多くのアイデアを生かしながら、子どもたちは活動をつくっていくのではないかと期待していますし、教職員一同こうした動きをしっかりと支えていきたいと考えています。

年度の折り返しである10月、誰も経験をしたことがない今の状況下で、手探りで一步一步進むしかありませんが、それでも、子どもたちとともに知恵を出し合い、保護者の皆様に支えていただきながら取り組んでまいります。

～運動会～

今月末には、運動会が控えております。すでに短距離走の練習やタイム計測も、給水・休憩をとりながら各学年で取り組んでいるところです。保護者の皆様も大変楽しみにしていられることと存じます。しかしながら学校だよりの9月号で、午前中開催、児童席の3密を避けるためにご家庭のシート敷きをご遠慮いただく、プログラムの縮小(学年演技中止)といったことをお伝えしました。さらに、保護者の皆様の入場人数・観覧場所の制限等を加えさせていただきます。

感染の終息がまだ見えない現在、保護者の皆様や子どもたちには、たいへん心苦しい決断ではありますが、どうかご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。